

令和2年度第1回江別市経済審議会会議録（要旨）

日時	令和2年8月3日（月） 14:00～16:15
場所	江別市民会館（37号室）
出席者（14）名	会長/井上誠司 副会長/平澤亨輔 委員/小走安則、和田美和、神保順子、中野亮二、大鹿琢、岸本佳廣、松浦智幸、杉野邦彦、中津智史、岡村恵子、中尾敏彦、石澤真希
事務局（12）名	経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、地域資源・観光協会担当参事、農業振興課長、企業立地課長、総合特区推進担当参事、商工労働課主査（2名）、ほか2名
欠席者（3）名	委員 /坂上伸也、皆川和志、渡部正廣
議事	報告事項 （1）各課主要施策概要について （2）旧岡田倉庫の移設とかわまちづくり協議会（仮称）の設置について

会議録（要旨）

会長	開会のことば
商工労働課長	委嘱状交付（省略）
経済部長	挨拶
商工労働課長	会議成立報告
経済部長	経済部職員紹介（課長職以上挨拶）
会長	それでは、次第の4、報告事項の（1）各課主要施策概要について事務局より説明願います。
商工労働課長	※経済部の組織機構等について説明（資料18～19ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご質問等ございましたらお受けしたいと思います。
一同	なし
商工労働課長	引き続き「商工労働課の主要事業」につきまして、ご説明させていただきます。 ※商工労働課の主要事業について説明（資料1～2ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等ございましたらお受けしたいと思います。
中野委員	3点ほど教えていただきたい。1点目は、1ページ目の相談窓口で、雇用調整助成金の相談状況はどうか。2点目は、まちなか仕事プラザはいつまでという期限のある事業なのか。3点目は、（まちなか仕事プラザの）求人情報はハローワークの求人情報と連動しているのか。

商工労働課長	<p>まず1点目の経済対策相談窓口の雇用調整助成金の相談状況については、今日現在で1件受けている。こちらの相談は、市内の社労士の方にご協力をいただき相談を受ける体制で、予約制で対応させていただいている。</p> <p>それから、まちなか仕事プラザの期限については、国の交付金を活用して事業を実施している。まずは3年間は継続してこのかたちで取組みを進めていく想定である。求人情報の件については、（まちなか仕事プラザで見ることができる求人情報は）基本的にハローワークで出されている求人情報と同じものが見られる。ただ、こちらのまちなか仕事プラザの趣旨としては、市内企業のことを市民によく知っていただき、ご自分に合った市内企業の仕事を見つけていただくということを主眼に置いているので、中心となるのは市内企業が出されている求人となろうかと考える。</p>
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
小走委員	ふたつあるが、ひとつ目に、まちなか仕事プラザの事業はコロナの影響を受けて、対策をしてきたと思うが、特にコロナとの関連を意識した対策をしているのかということ。もうひとつが、江別市の場合、コロナ対策の支援事業について、特に市としてユニークに行っている施策というのがあるのか教えていただきたい。
商工労働課長	<p>まずコロナの環境下でということについて、（まちなか仕事プラザは）キャリア支援員に常駐していただき、基本的には来ていただいて相談に乗るところであるため、その点は、十分配慮している。相談の時の距離の取り方やマスクの着用はもとより、セミナー実施時も衛生面に対応しながら実施している状況である。</p> <p>それから、市独自の新型コロナ支援については、江別市の基本的な考え方として、他市では北海道の緊急事態宣言を基準に給付金を出しているところもあるが、江別市では商工会議所が実際に調査するなどして、その調査結果を基に、ここに挙げているような、特に2月3月に大きな影響を受けている事業者に直接給付金を（北海道の）休業要請のあるなしに関わらず、支援したところである。このほかに、大学生に向けては、アルバイトの学生を新規で雇用されている事業者向けに支援金を出し、大学生を支援して下さる事業者を支援することで、大学生を支援させていただいた。</p>
小走委員	最後にもうひとつある。支援金の申請やハローワークでの仕事の斡旋についてのみならず、コロナ禍の中で市役所の中でもデジタル化やオンライン化を進めることは課題ではないかと思う。経済部に限る話ではないが、江別市で現状対応方針というものがあれば、是非聞かせていただきたい。
商工労働課長	江別市全体の今後のデジタル化・IT化については、経済部の所管ではないので、施策概要で述べるのは困難であるが、今回の経済対策については、極力3密を避けるという世の中の大きな流れに添って、基本的に各種給付金は郵送等で受付ができるように事業を組み立てた。また、江別金融協会の協力を得て、融資の相談については、事業者の方が金融機関に一度行けば市役所での手続きが不要となるようにするなど、皆さんの協力を得て進めてきた。
会長	今のお話によると、今回、給付金等は窓口に来ていただかなくても申請可能であるので、いい方法ではないかと思う。
商工労働課長	実は市役所内でも、対面の打合せは4月以降原則行わないルールであった。ただ、緊急事態宣言解除後は、一定の感染拡大防止策をとることで感染を回避することができるようにして再開した。経済審議会についても、そういう配慮をさせていただきながら、今日開催させていただいた。
会長	対面でないとコミュニケーションが出来ない、審議が出来ないという意見もあるので、市の配慮の内容を踏まえ、マスクの着用など自分で安全対策として出来ることがあったらやっていただくということもありなのではないかと考える。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
一同	なし

会長	続きまして、「観光振興課の主要事業」につきまして、事務局より説明願います。
観光振興課長	※観光振興課の主要事業について説明（資料3～4ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。
会長	これまで観光入込客数は単年度のみ表記だった。それでは増減がわからないので、複数年度を掲載してはどうかと提案したが、その点に対応していただいたことについては感謝申し上げる。ただ、既存の計画の有効性を検証するため、ここ直近の3年間の数字を出すのではなく、もっと遡って、できれば前の（観光振興）計画の時期などと比較された方がいいのではないかと感じた。
観光振興課長	次回資料作成の参考にさせていただきたい。対象施設も増減しているので、そちらもわかりやすくお示ししたい。
会長	観光振興計画に関して、レンガと農業がキーワードだったと記憶している。まず農業に関しては関連の項目が見受けられるが、レンガ産業に関しては今回観光振興課の取組みに全く触れられていない。レンガ関連産業と観光との連携はどうなっているのか、あるいは農業を含めた連携はどうなっているのか。
観光振興課長	レンガ産業との連携した取り組みはないが、今回配布したえべつコレクションという冊子の体験特集では、米澤レンガの工場見学について記載している。また、本日配付したクリアファイルにはE B R Iの前で女性がパンを持っているが、こちらは、観光ポスターも作成し、PRツールとして新聞にも取り上げていただいた。なかなかガラス工芸館とセラミックアートセンター以外では観光施設としてレンガを紹介する機会・施設がないが、周遊イベント等の折には両施設を紹介したり活用したりしている。農業については、令和元年度は、農業と一緒に江別の食の魅力として、セミナーを開催している。
副会長	私は経済審議会の観光専門部会で部会長をしたが、観光振興計画を策定した際、レンガを強調したのは、道央圏から江別にかけては食などいろいろある中で、江別の特長を何か打ち立てられないかということで、そこを少し強調した経過がある。
会長	レンガと農業を関連させて、これを江別のオリジナリティとしてPRするのはひとつの観光の有効な手法だと思うので再度ご検討いただきたい。
観光振興課長	参考とさせていただく。
会長	ゆめちからテラスは、来客数が多く、成功例に位置付けられると思われる。ゆめちからテラスで使われている原料は江別産ではないが、江別が小麦のまちだと市外にアピールするには非常に有効だったと思う。そして、前回、これをきっかけに江別は小麦が振興作物のひとつだとPRするいいきっかけになるのではないかと発言をしたと思うが、進んでいないように思う。ゆめちからテラスの来客数が多いうちはPRのチャンスと捉え、それを踏まえた観光振興もお願いしたいと感じているが、いかがか。
観光振興課長	ゆめちからテラスもそうだが、もともと、小麦では、麺もあり、パンもあり、また、来年3月に近隣に特産品スイーツなどを提供する観光施設ができるとも聞いているので、そちらも含めて点ではなく面でもPRできればいいと考えている。参考にさせていただきたい。
会長	小麦関連の会社などが集まることによって江別の小麦全体をPRできるといった集積効果が生み出せると思う。本日は商店街振興組合連合会の岸本委員も出席しているが、岸本委員のお店がある大麻銀座商店街ではかつてカレーフェアを開催された。ライバル関係にある飲食店があえてカレーという同じメニューの提供をPRして集客数を増やすといった効果を得ている。これと同様に、小麦に携わる方々や企業が一カ所に集まって、全体で小麦を盛り上げていけるような場所を設けたらどうか。せっかくゆめちからテラスができたのであるから、その周辺をこのような場所にできれば良いと感じている。検討願う。

会長	その他、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。
副会長	観光施設は増減もあるようだし、どの施設がどのような集客力を持っているか、例えばE B R Iは最近内装も変わったので、どんなふうになったのかということをお教えいただきたい。
観光振興課長	民間施設の個別の数字のはっきりとした増減は、右肩上がりの時はいいけれども、減ってくると数字を出していただくことへの協力が得にくくなっていくことがある。許可をいただければ出してもいいのだろうが、出さないところは許可していないところということになり、個別の施設の数字を出すのは難しいところがある点をご理解いただきたい。
中尾委員	江別で観光といっても、市民もなかなかピンとくるところがない。そういった中で、百数十万の入込観光客を抱えているということは、どういうことなのかという感じがする。江別が他の市町村に比べて多いのか少ないのか、そういう客観的なものの説明があるとわかりやすいということがひとつと、おおまかな内訳というか、どこにどれだけ人が入っているのかがわかると、江別の観光は、どの辺が強いのかとわかるのだが、いかがか。
観光振興課長	近郊都市については北海道で資料を作成しており、石狩管内の他市の状況などは、次回にはなるが、この経済審議会場で伝えることはできる。この119万人という数字にはどういった施設が含まれているかの出し方については、個別の施設が出せなくても、こういう施設を対象にしているといったかたちで出せないかということも踏まえて、検討したい。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
小走委員	コロナ禍の中では、オンライン等を使ったイベントを開催して行う方法もあると思う。基本的に対面集合のイベントの中止が多い中で、もう少し前向きにいろいろなビデオを作成して活用することもお願いしたい。
観光振興課長	オンラインで観光セミナーを行なえないか、また中止になった周遊バスイベントの代わりに何か動画を活用して周遊を促すような取組みができないかを検討している。
杉野委員	観光振興の一環として、江別市がレンガや農作物や小麦などのテーマを尖せようと進めてきた中で、麦の里えべつというテーマの下、生産者、飲食店、農家も協力してきたが、ゆめちからテラスは、民間事業者のパスコさんが運営しており、麦の里えべつをPRする場にはなっていない。やはり行政、麦の会、この審議会などで意見を交換することが江別産のブランド品や観光資源を尖せるカギになると思う。パスコさんにも理解していただきながら、ゆめちからテラスで江別産小麦を使ってもらったり、江別の麦の歴史を動画で紹介したり、麦をコンセプトとしたセミナーを行っていただいたりしないと、民間がやっていますからで終わってしまうのではないかと、私たちの想いは伝わっていないのではないかと気がする。その辺りを含めて北海道と考える場を作ることができたらという気がする。
会長	私が言いたかったことを具体的に言っていただいた。市も含め、麦に関わっているいろんな方が携わって、麦の振興というものを考えていかないといけないのではないかと。ゆめちからテラスが集客力を維持しているのが江別産小麦をPRできる最後のチャンスだという気持ちで、それに関わる組織なり、場所なりの設置を検討いただきたい。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
一同	なし

会長	続きまして、「農業振興課の主要事業」につきまして、事務局より説明願います。
農業振興課長	※農業振興課の主要事業について説明（資料5ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。
中野委員	学生アルバイト雇用農業者助成金について、利用状況はどうなっているか、おおむねどのような作業をされているのか。時給がどれくらいなのか、学生の現地までの交通手段、また怪我をされた場合の行政の対応はどのようにしているのかについても説明いただきたい。
農業振興課長	まず時給については、だいたい1000円前後である。実績は、今のところは6月の分として1件。酪農家であるため、今後も継続して、7月、8月とその方から申請がくると思われる。基本的にはシーズンが終わった段階で他の方も申請にくる。 交通手段については、聞くところによると、農家の方が大学なり駅なりに迎えに行く、学生が自転車で行く、車を持っている学生が友達を連れて、乗合で行くといういろいろな移動パターンがあるようだ。 作業内容については、主に農家であるが、短期の場合は収穫したものをトラックに運ぶなどの単純労働が多い。長く雇用されている学生は収穫作業もできる。 事故については、労災保険の加入など雇用者の対応になってくる。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
和田委員	野菜の日キャンペーンというのはいつ頃で、どういったことをするのか。黒毛和牛について、江別で黒毛和牛が食べられるところがわからない。それと、小麦のきたほなみはどういう特長があるのか。これらについて説明いただきたい。
農業振興課長	野菜の日キャンペーンは、8月31日が野菜の日であるため、この日に合わせて8月19日から8月31日までの間、江別の野菜を食べましょうということで直売所で買い物をしていただいた方に抽選で野菜の詰め合わせを贈呈するもの。 黒毛和牛の関係については、野幌地区の何店舗かの飲食店で食べられるが、常時提供しているところはない。 きたほなみは、江別産ハルユタカだけだととなかなか製品になりにくいことから、ブレンドすることで効果が表れる。江別産小麦の麺などに活用している。
会長	黒毛和牛を常時食べられるところがない、けれども黒毛和牛をPRしているという話は明らかに矛盾している。供給量が少ないのであれば、この点をPRして売り出すのもひとつの有効な手法と言えるのではないだろうか。国内の他産地の状況を見ると、例えば山口県萩市の見島牛や鹿児島トカラ列島の口之島牛は、他の品種と交配していない在来種で、そもそも飼養頭数が極端に少ないことから供給量が少なくなっている。在来種ではない品種改良した肉牛の産地でも、供給量が少ないことを逆手にとって希少価値があることをPRしている産地も存在する。富山県氷見市の氷見牛がそうだ。希少性を有するため年に数回しか食べられない肉であることを、これらの産地はわざわざ売り文句にしているのだ。その数回しかない肉を食べられる日を目掛けて、これらの地域には全国各地から肉好きの方々、グルメな方々がやってくる。生産者、飲食店の収益が増加しているのはもちろんのこと、地域全体にも波及効果が表れている。このように売り方を工夫すれば農業振興のみならず経済振興にも結びつくということを踏まえて、肉牛産地としてのあり方を考え直しても良いのではないだろうか。
農業振興課長	昨年、ふるさと納税で、初めて、えぞ但馬牛（江別産の黒毛和牛）を出した。直売価格ではなく、他のブランド牛並みの価格を設定し売ったところ、30セットくらい売れた。高く売れば肥育牛が増えていくだろうから、そういったことも模索しながら、供給量の拡大に向けて検討していきたいと考えている。

杉野委員	<p>食育事業は非常に大事だと思う。先に、小学校農業体験学習等が出たが、私は小麦に関する食育体験学習を毎年やっている。現場でやることもあるし、各小学校の体育館で出前授業でやることもある。以前に、その子供達が中学生になり、クラス対抗で壁新聞を作るようになった。それで、江別の小麦をテーマにした壁新聞をまとめようという話になり、江別の中学生が訪ねてきて、ハルユタカのことを教えてほしいという。「僕たち、小学校のとき、江別の会社のおじさんたちが学校に来てくれて、江別の小麦のことでいろんな授業をしてくれた。江別は小麦のまちだよ、ハルユタカが素晴らしいんだよ、といろんなことを教えてくれた」という。私は、大人が子供に地域の良さを教えていく、それが繋がっていく、そのことは大事なことだと思う。今。コロナの影響でこういった体験学習がなくなっているが、たまたまその年に生まれただけでそういう体験ができないということはあるかもしれないけれども、オンラインでの食育事業は、体験できなくても、知識として自分たちの地域の良さを実感できる。そういったことを、代替授業ではないが、考えてもいいのではないかな。子どもたちのことを思ったら、たまたまこの年だったからできなかった、出来なくても仕方ないではなく、出来ることはないかなと考えていく方がどうだろうか。</p>
農業振興課長	<p>今年は食育については、田植えも中止になり、なかなか実施出来ているということがない。しかし、食育学習は小麦畑に子供達が行き、製粉会社で手伝い、自分のまちのよさを意識する学習である。そういったことがいつでも学べるような、動画なのか、冊子なのか、そういったことも検討する必要があると思う。貴重な意見として承る。</p>
会長	<p>農林水産省も牛乳の消費PRとして食育も含めたPRを、映像をとって配信しているので、市内の小中学生に対してそういった食育のPRを行うというのもひとつの手かなと思う。検討願う。</p>
岡村委員	<p>農家の母さん土曜市というイベントがあるが、どうやって密にならずに、どうやって運営していったら開催できるかが課題だ。農業振興課とも相談しているが、コロナだから全部だめではなく、前向きに取組める形があれば開催したいと思っている。</p> <p>大学生アルバイト雇用農業者給付金について、農業者の立場で言うと、5時間という時間は結構厳しいと思う。例えば江別の特産品であるブロッコリーの収穫の場合、朝収穫して10時半くらいには出荷してしまう。たいていの作業はそれくらいで終わってしまう。3時間せいぜい3時間半、5時間になると難しい。この2000円の給付金自体はすごくいいと思った。また、学生の交通費を出してもらえたらいいと思った。この5時間という時間がどういうかたちでできて今後の方向性があるのかどうか聞きたい。</p>
農業振興課長	<p>時間の設定というのは、農協の方と話す中で、1日に6、7時間程度働く方が多いとお聞きした中で5時間に決めさせていただいた。時間設定の変更は考えていない。</p>
岡村委員	<p>食については、販売や試食販売などすべてが難しい現状ではと感じている。何でもそうだが、コロナ禍において何でもだめではなく、少しずつ前を向ける状況が作れたらいいと思っている。</p>
会長	<p>先ほどの会議の手法と同じかもしれないが、何でもだめだめではなく、いろいろな対応を考えていただけたらと考える。</p>
神保委員	<p>きたほなみのことだが、助成はずっと毎年こうなのか。</p>
農業振興課長	<p>きたほなみについては、国の交付金制度で、例えばゆめちからと比べたとき、60Kg当たり2300円の差が出る。この差があるため、生産者にとってきたほなみが作りづらい構造となっており、市が補助している。国の補助制度が今後どうなるかで、きたほなみに対する扱いが変わってくる。</p>
神保委員	<p>単価が上がれば解決できるのか。</p>
農業振興課長	<p>他品種のゆめちから、はるよこいと同じような単価設定になっていけば作っていただけるということになる。国の補助制度の推移を注視していかなければいけない。</p>

神保委員	パンを作るときなど、きたほなみには需要はある。ということは、単価は上がるのではないか。
農業振興課長	(きたほなみは中力粉だが) 強力粉がなかなか作られていないので強力粉加算という国の補助制度がある。今後はその部分(強力粉と中力粉)の需要と供給のバランスが変わっていけば、強力粉加算も変わってくると思う。その辺りで(きたほなみの)作付けは変わってくる。
神保委員	当面のところは助成するのか。
農業振興課長	今のところは、そうなる。
杉野委員	麦の里えべつを推進する上で、江別産小麦100%のパン、お菓子、ケーキなどを考えるときに、きたほなみのような中力粉、ゆめちからのようなタンパクの強い超強力粉などがある。いろんなものを江別産小麦100%で作る場合、1品種だけ江別産小麦でも、いろんな製品は作れない。生産者にすれば8000~9000円の国の補助金が出る強力粉の小麦だけを作る方が収入はいいのかもしれないが、補助金が少し足りない(中力粉の)きたほなみは、だから作らないではなく、江別小麦100%のいろんな食品を作るには(中力粉である)きたほなみもないとブレンドしないと出来ない。それに生産者も協力して下さいということで、きたほなみにも市に補助をしてもらい、生産者に作ってもらっているのが実情だ。根底には、麦の里えべつの地域のブランドや、それをどうやっていこうかという考え方がある。
農業振興課長	おっしゃるとおり、ハルユタカだけではいろんなものを作れないため、ブレンドすることで、いろんな製品を作っている。
副会長	審議会の資料の作り方だが、例えば農業体験学習をどんなところでやっているのか、それから市内生産者を招いたイベントを年に何回やっているのか、そういう情報が欲しい。もう少し詳しい資料も提供いただきたい。
農業振興課長	今回は、実施回数や実施例、そういったものを盛り込んで分かりやすくしたい。
会長	昨年度、農業振興計画を策定されたが、その計画が実現しそうなのか、計画と実績に関わる数値を並べて示した資料も提供いただけるとありがたい。検討を願う。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
一同	なし
会長	続きまして、「企業立地課の主要事業」について、事務局より説明願います。
企業立地課長	※企業立地課の主要事業について説明(資料6~8ページ)
会長	ただいまの説明に対して、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。

会長	本社機能移転補助金は、申請や問合せ状況はどのような状況にあるのか。
企業立地課長	4月施行の新しい制度であり、具体的な問合せがあった企業は今のところはない。ただ、要件を大幅に緩和したこともあるので、これから一定程度の活用は見込んでいます。
会長	コロナ禍で、リモートや遠隔だとか、当たり前のように受け入れられるようになった。IT企業などではもう東京に本社を置かなくても良いと判断している経営者がいるようだ。最近の日本経済新聞の記事によると、本社を札幌に移転することを検討しているIT企業の経営者もいるそうだ。こうした情報をキャッチしながら、江別をPRすべきではないか。
小走委員	IT関連企業は、それなりにいい通信環境が整備されていないと、まず来ないだろう。今そのところが壁になっているのでIT関連企業を誘致する前提としては、市がある程度整備するというのも当然必要ではないかと思うが、それに対する議論はいかがか。
企業立地課長	企業誘致に関して、IT関連の支援については、今回の見直しの中では措置はしていない。国（経済産業省）の方では、そういった補助メニューがあるため、そういったものを紹介しながら、今後については、江別市の中でもどういった支援が出来るのか、あり方を考えていきたい。
小走委員	札幌で出来るというのが普通だが、しかし札幌ではなく、江別に企業を持って来る、そのためにはどうしたらいいのかということを考える必要があると思う。札幌はコロナで危険なので、だったら江別に行こうとなる秘策が必要になると思うが、そのあたりはどうか。
企業立地課長	すでに札幌市では密を避けるという意味で、札幌市以外にオフィスを求める動きも出てきている。今後江別市でもそういったニーズにどういったかたちで対応することができるのか丁寧に対応していきたい。
会長	是非検討願う。全国的に見ると札幌市が好条件ということでオフィス移転を考えている企業があるのだろうが、江別よりも札幌の方がコロナの危険度が高いという見方もあり、そう判断する経営者は江別の方が移転先として有利と考えるかもしれない。今、札幌が注目を浴びているわけだが、それをライバル視して、江別に来てもらえるよう、様々な条件整備を行っていただきたい。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
一同	なし
会長	続きまして、「総合特区推進担当の主要事業」につきまして、事務局より説明願います。
総合特区推進担当 参事	※総合特区推進担当の主要事業について説明（資料9～10ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等ございましたらお受けしたいと思います。
杉野委員	江別市として特徴的なのは、機能的食品の開発推進であり、特に情報大学の江別モデルが独自のものかと思う。ヘルシーDoの認定としては5社10品目が示されているが、これらの商品はどの程度販売されたのか。
総合特区推進担当 参事	販売額については、道の方で取りまとめおり、公表されていないため、私どもも把握できない状況だが、各企業からは認定を受けた後の方が売上が良かったと聞いている。

杉野委員	機能性食品というものに対し、消費者がどう感じて受け入れられているのか、データとしてある程度表に出てくることによって他のメーカーも取組みやすくなるだろう。もう少しオープンにしたらどうか。
総合特区推進担当 参事	ヘルシーDoは機能性食品と違って機能性を表示できない状況であるほか、広く一般に売るのではなくターゲットは特定の人にかぎられてしまう。ヘルシーDoのメリットというものをいかにしてPRしていくか、運営主体である北海道の方にしっかり要望していかないとならないと考えている。
中津委員	フード特区の関係で、これまで継続してきて、令和3年度で終了ということになっている。それ以降の事業の継続や、今後の形態などについて、何か目途がたっているのか。
総合特区推進担当 参事	平成29年度からの継続計画となり、今回令和3年度で継続計画は終了する。フード特区機構では、円滑にこれまでの業務が継続になるよう、また引き続き支援体制を確保できるよう、今、引継ぎを順次進めている。江別市としても、引き続き企業の付加価値の高い商品づくりや、販路の拡大の取組みについても、フード特区がなくなることでやり方はかわってくるが、企業への支援は継続したい。
和田委員	去年も思ったが、海外や東京の方にプロモーションなどしているということだけれども、江別の市民がどれだけ知っているのかと、疑問に思っている。
総合特区推進担当 参事	江別フェア、江別ナイト、シンガポールで江別フェアを実施したということは、新聞に掲載された。新聞誌面を通じて江別市民にPRした。
和田委員	そういう意味ではなくて、江別市民がヘルシーDoの10品目をどのくらい知っているのか。江別市民はこの制度の趣旨を知っているのか。
総合特区推進担当 参事	ヘルシーDoの周知については、ヘルシーDoの改善しなければならないところだと思っている。例えば機能性については血圧に効くだとか、糖尿に効くといった成分が入っていて、これらに関係ない人にはまったく興味のない商品になるので、そういった点でいえば機能性を非常に気にされている市民の方はこのヘルシーDoについてご存知かもしれないけれども、そうではない方はあまり興味がないという部分があるかと思うので、そこがヘルシーDoの課題のひとつであると考えている。
和田委員	もう少しPRしたほうがいいのではないか。
総合特区推進担当 参事	PRについては、北海道や江別市では、さまざまなイベントや空港等で、PRはさせていただいている。ご指摘のとおり、ヘルシーDoが認知に結びついていないのかも知れない。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
一同	なし
会長	それでは、全体を通してのご意見はありませんか。
中津委員	私の住んでいる北広島市と比べると、観光もそうだが、農業についても、きたほなみの助成のような、(国の)政策が追い付いていない部分について市独自で助成するというのはかなり思い切った対応でないかという気がする。非常に江別市の活力、やる気というものを感じたし、それについては高く評価したい。 コロナウイルスで大変だと思うが、リモートや代替手法なども含め、今後も柔軟な発想で対応していただきたい。
会長	それでは、次に次第の4、報告事項(2)「旧岡田倉庫の移設とかわまちづくり協議会(仮称)の設置について」、事務局より説明願います。

商工労働課長	※「旧岡田倉庫の移設とかわまちづくり協議会（仮称）の設置」の説明（資料11～14ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等ございましたらお受けしたいと思います。
中尾委員	適切な移転先を確保した上でということですが、その移転先が一番の課題だろうと思う。移転先としてどういふところを考えているのか、お考えをお伺いしたいのと、移転するとすれば経費というのがだいたいどれくらいかかるのか、もしわかったら教えていただきたい。
商工労働課長	場所については、こちらは舟運の時代を反映させる貴重な建物であるため、歴史的な意味や、文化財としての価値が損なわれないような位置に設置したいと今、市では考えている。ただ、利活用があるため、今後の協議会の内容に合わせ、最終的な方向性が出て考えている。経費については、これは先ほどの説明のとおり、築堤工事にかかる用地買収にかかっているところであるため、移転補償の範囲内で移設することを考えている。この点に関しては、国との交渉途中であるため、移転補償の具体的な金額というのはまだ提示されていない。
岸本委員	昨今の全国各地の洪水を踏まえた上での移転先や、江別の歴史的な建造物としての体験型の活用方法なども検討していただきたい。条丁目地区全体を見たとき、単純に建物の移転ではなく、江別駅前地区の活性化や新しい顔づくりみたいなもの考えたうえで、進めていただきたい。
商工労働課長	今の指摘のとおり、単純に建物の移設だけということだけでは議論は終わらないと私どもも認識しており、市としても条丁目地区のまちづくり全体を捉えながら倉庫の移転先は（協議会で）決定されるものと考えている。
杉野委員	この旧岡田倉庫の横には旧岡田邸というものがあるが、今回の検討は岡田邸と岡田倉庫との関連は関係なく考えているのか。旧岡田倉庫の新しい活用方法の検討というのは、今の演劇だとか演奏だとかいろんな文化活動に寄与してきたような利活用が前提としてあるのか。
商工労働課長	まず、岡田邸と岡田倉庫との関係については、倉庫をご活用いただくときに、岡田住宅の方も一緒に活用されている例が多いのが現状である。しかし、今後の移転に際して、実は岡田邸は工事のラインにかかっていないため、ここについて今回の整備に併せて何かするかというのは今の時点では何とも言えない。ただ、この位置付けについても、おそらく今後設置されるであろう協議会の議論の過程で触れられるだろうとは思っている。利活用の中身については、これまでの形が基準になるであろうが、そこから付け加えられていくのか、変化していくのか、それはまだ議論を待たなければならないが、そういった要素も入れ込みながら今後決められていくと考える。
会長	いずれにしても、こういった歴史的価値のある建物は市外にもアピールしていただきたいし、市民の皆さまにも紹介していただきたい。観光振興に結び付けられることを祈っている。今後とも継続と協力を願う。
会長	それでは、次に次第の5、「その他」に関して何かございますか。
商工労働課長	経済審議会の今後の予定について、通常、経済審議会は年に1、2回の開催とさせていただいているところであるが、今年度は、2回の開催を予定している。改めてご案内するので、よろしくお願ひしたい。
会長	その他、委員の皆さまから何かございますか。
杉野委員	グループ会社の通達の基準では、万一陽性の感染者が出た場合の濃厚接触者の基準について、1m間隔で10分以上そこで議論していたら該当となる。例えばついたてがあればその限りではないという基準もあるが、結構最近の基準では厳しくなっているというのもあるので、この会議の在り方も考えていただけたらと思う。
会長	その他、何かございますか。
一同	なし
会長	閉会のことば

